

ふるさとの  
古民家にふれる...

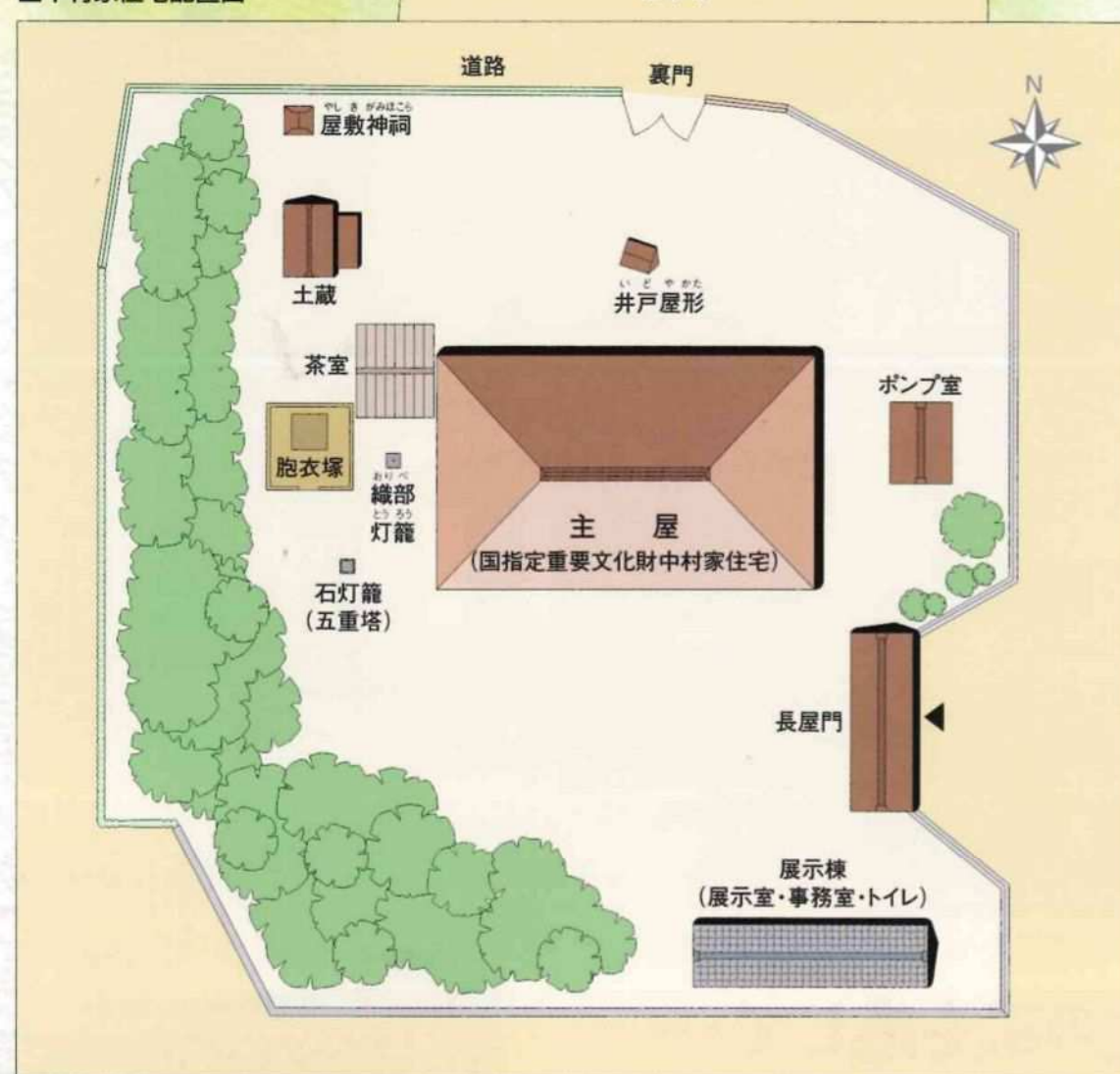


国指定重要文化財

# 中村家住宅

昭和48年(1973)6月2日国指定

■中村家住宅配置図



## 観覧のご案内

- 開館日 金・土・日曜日、祝日  
※12月28日から1月4日までは、休館
- 開館時間 午前9時30分～午後4時30分  
※入館は午後4時まで
- 観覧料 一般/200円  
高校生/100円  
大人団体(20人以上)/1人160円  
大人団体(80人以上)/1人120円  
70歳以上・中学生以下/無料

## 交通アクセス

- バス 浜松駅から志都呂宇布見線(山崎行)  
「宇布見領家(バス停)」下車 徒歩1分
- 電車 東海道本線舞阪駅下車 徒歩20分
- お車 東名浜松西インターから南へ15分

●お問い合わせ...

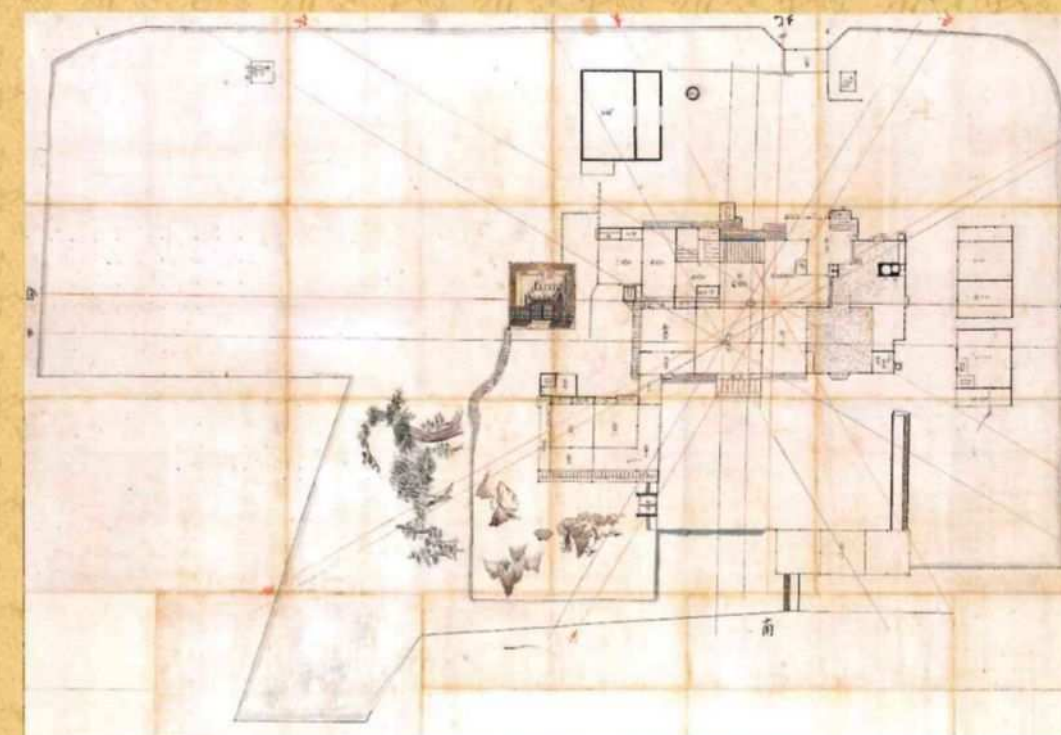
中村家住宅事務所 TEL.053-596-5585

浜松市中央区役所西行政センター TEL.053-597-1117

●所在地/〒431-0102 静岡県浜松市中央区雄踏町宇布見4912-1

●所有者/浜松市

発行者: 浜松市中央区役所西行政センター 発行年月日: 2024(令和5年度)1月版



家相図(国指定重要文化財附)

屋敷構えは主屋を南向きにし、他の附属屋(納屋、倉、物置)との動線もみごとに構成された配慮が見られる。なお、主屋の南西には、離れ(於義丸誕生の御殿)がある。また、長屋門は主屋の南側に位置している。

# 江戸時代の主屋が現代へ そして未来へ...

歴史を伝える日本の家屋がここに甦る!!



銅版画  
明治25年に発行された銅版画で、長屋門脇の土堀、天神宮、裏門付近などが現在と変わっている。  
※静岡県明治銅版画風景集・複製より掲載

## ●中村家の歴史●

中村家の初代中村正範は源範頼の末裔の武士で大和国広瀬郡中村郷に住んだ。文明13年(1481)には、14代正實が今川氏に招かれ、遠江国磐田郡大橋郷に領地を賜り、その後数知郡和田、平松、宇布見、山崎、大白須の五か荘が与えられ、文明15年(1483)に宇布見に屋敷を構えた。16世紀の今川氏の時代には、同氏の家臣で代官を勤め、浜名湖の軍船を支配した。

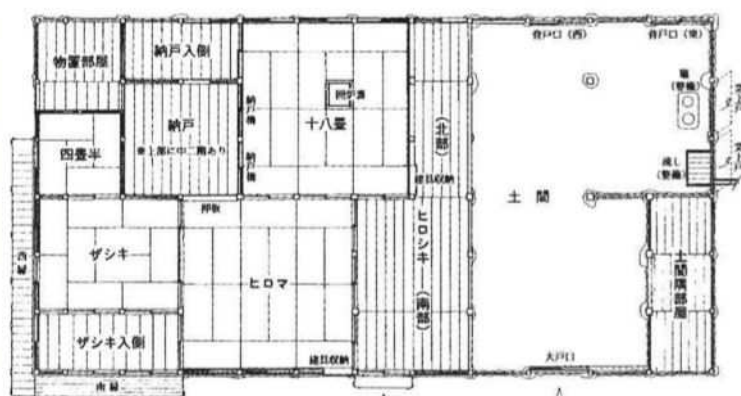
永禄11年(1568)に徳川家康が遠江に入国した時、18代正吉は船を出して迎えるなどの御用を果たし、徳川氏に仕え今切軍船兵糧奉行や代官を勤めていた。こうした関係から天正2年(1574)2月8日に徳川家康の側室お万の方が家康の次男である於義丸(後の結城秀康)を当屋敷で出産し、その時の胞衣(後産)を埋めた胞衣塚が現存している。

天正18年(1590)、徳川家康が関東へ移った時に、18代中村源左衛門正吉は宇布見村に残った。

江戸時代には庄屋を勤めていたが、藩祖を結城秀康とする越前福井藩や津山藩から士分格として知行を得ると共に越前松平家一門、浜松藩主から、於義丸誕生の御殿や胞衣塚修繕の名目で金銀が下賜されていた。また、徳川御三家、老中、大坂城代、京都所司代の諸大名たち及び越前松平家一門の大名が東海道を通行する際に、中村家歴代当主が御目見をしていた。このように徳川氏との関係で格式の高い家柄であるため、一般の庄屋たちとは異なって、浜松城主と単独で拝謁できる古くからの独礼庄屋であった。

明治維新時の28代貞則は、討幕軍を警固する遠州報国隊の結成に尽力し、郷社の神官を勤め、五等郵便局も開設した。29代東海は神職となり当地方の精神的な支柱として住民の尊敬を集め、東海様と呼ばれた。30代正輔は服部・中村養蠶場をはじめ、明治35年(1902)には三等郵便局長に就任している。31代幸八は昭和24年から衆議院議員として長く政界で活躍した。

## ■平面図



※国指定重要文化財 中村家住宅保存修理工事報告書より掲載

## ■保管鬼瓦

阿吽の対になっている。

貞享五年  
辰之四月五日

阿形鬼瓦



三州  
八左衛門  
貞享五年  
三月日

吽形鬼瓦



▲土間(南東隅)から床上部をみる

## 歴史の風を感じて...

## ●建物の概要●

国指定重要文化財に指定されているのは主屋である。

主屋は約3,000㎡の屋敷のはば中央に、正面を南に向けて建つ。

平成12年(2000)、雄踏町は主屋など建物の寄附を受けた。平成13年度から15年度にかけて解体修理を行い、その際の調査で建築当初の姿とその変遷が概ね明らかとなったので、当初の姿に復元した。

主屋の建築年代は、大棟の瓦葺に使われていた鳥衾(現在も棟に使用中)と、貞享5年(1688)の寛書きがある鬼瓦との取合いが一致したことから、そのころと考えた。

主屋の規模は、桁行(間口)21.3m、梁間(奥行)11.2m、平面積238.7㎡と大規模で、屋根は寄棟造の茅葺(茅材は葭)である。

特徴的なのは、棟通りと梁間方向中央の柱通りを揃え、これを境として、桁行方向に部屋が食い違いの配置になっていることである。

主屋の構造は、側柱(外回りの柱)は省略なく、部屋境は2か所を除いて柱を1間ごとに、礎石の上に直接立て、おもに貫で相互の連結はかられている。

以上のほか、主屋の特徴としては、柱の面取りに規則性があること、3間四方の部屋が南側と北側にそれぞれあること、納戸構・押板・格子窓といった古民家に共通するものを備えることなどがあげられる。



長屋門(市指定文化財)

江戸時代、式台や玄関と同じように、一定の格のある家に建てられたもので、安永4年(1775)、屋敷南側に建築された。その後、屋敷東側に移設した。



胞衣塚(市指定文化財)

徳川家康の次男(於義丸、後の結城秀康)が、この中村家で生まれ、その胞衣(後産)を埋めた塚。塚上の梅の木は、徳川家康のお手植えと伝えられ、数代を経ている。